

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ



卒業研究に取り組んで —卒業研究の魅力と進め方—

通信教育部福祉心理学科卒業生

寺田 美秋

■卒業研究を決意

単位修得がほぼ完了し卒業が見えてきた一昨年の夏頃、卒業研究に取り組もうと考えました。これまでの勉強を研究成果という形にしてみたい、大学院で研究を継続するための基礎にしたい、という2つの理由からチャレンジしようと決めました。仕事をしながら研究論文を書けるのかと不安もありましたが、多くの方々に支えられ、何とか無事研究論文を書き上げることができました。ご指導、ご支援くださった皆様に深く御礼を申し上げます。

■卒業研究の魅力—未知のものを明らかにすること—

卒業研究に取り組んでよかった点は3つあります。

第一に、研究で得られた知見を論文という目に見える形にできることです。私の場合は交流分析理論の視点から「基本的構えとユーモア志向の関係」というテーマで研究を行ったのですが、先行研究はわずかでした。とくに基本的構え（交流分析理論の構成概念の一つ）を用いた研究はみつかりませんでした。ほんのささやかなことであっても、これまで明らかになっていないことを明らかにできるかもしれないと思うと、少なからずわくわくしました。こうした“わくわく”を研究論文という形にできるのが卒業研究の大きな魅力ではないでしょうか。多くの方々にぜひ味わっていただきたいと思います。

第二に、自分が研究したいテーマに取り組めることです。もちろん研究

の意義、研究史上の位置づけ、研究の実現性などは考慮する必要があります。しかしそれをクリアすれば、自分の関心に従って取り組めるのです。これは卒業研究に限らないかもしれませんが、まさに研究の醍醐味だと思います。

第三に、指導教員の先生にご指導いただきながら、研究を進められることです。心理学研究や論文の書き方に関する書籍類は多数出版されていますが、実際には、それらを参照するだけでは分からないことが多々ありました。私の場合、研究の重要な場面になると、指導してくださった中村先生からの確かなアドバイスをいただくことができました。実践を通じて研究方法の基本を学べる機会は大学以外ではなかなか得られないと思います。とくに卒業後も研究を続けていきたい方には、在学中に是非経験しておかれることをおすすめします。

■卒業研究の進め方

— 研究目的を明確に、段取り八分！気合い二分！ —

実際に卒業研究に取り組んでみて、とくに重要だと感じた点をまとめてみました。参考になれば幸いです。

第一に、研究の目的を明確にすることです。言い換えれば、何のために何を明らかにするかをしっかり持つておく必要があります。曖昧だと手戻りや修正が必要になってしまいます。あたり前のようですが、実際進めると意外と案外難しいと思いました。私の場合、まず交流分析理論、ユーモアについて詳しく調べていったところ、それぞれの分野に多くの研究者の膨大な研究の蓄積がありました。それらを読めば読むほど、自身では明確にしていたつもりの目的や問題意識が、かなり曖昧なものであったと分かりました。研究史をまとめ、目的や仮説を記述する作業の中で、先生のご指導もいただきながら何度もブラッシュアップし、明確にしていきました。

第二に、段取りが大切です。試行錯誤からも得るところはありますが、極めて限られた時間で取り組まなければならない社会人にとっては、手戻りは大きなロスになってしまいます。よい参考書が必要だと思いました。「改訂新版心理学論文の書き方」(松井；2010)が自分に最もあっていましたので、常に手元において研究を進めました。スケジュールの立て方、論文の執筆順(研究史からではなく方法から書く、など)など具体的に書かれています。この他、研究の各段階で自分にあった参考書を参照しながら進めました。これらの本と先生のご指導があれば、道に迷うことはないでしょう！

第三に、時間の使い方です。通信教育生の場合、卒業研究も重要ですが、仕事も、家族との時間も重要という方が多いと思います。私は、在学中を通じて家事育児も夫婦で協力して行い、また土曜は勉強、日曜は家族と過ごす決めていました。そこで“インプットは通勤電車で、アウトプットは土曜の図書館で”と時間を使い分け、足りない分は早朝や細切れで補いました。当然、記憶や思考が分断されますので、付箋紙と教科書への書き込みでマーキングしておき、週末に一気に書き出してまとめるという方法で挑みました。これが秘訣というか工夫と言えるかもしれません。あとは気合いで何とかなるものだと思います。3年次編入で卒業まで5年かかりましたが、計画通りにいかなくてもあきらめずに一歩ずつでも前へと進んでいるうちに、ゴールが目の前に迫っていました。

■家族に感謝！

卒業研究を決める際には、やはり家族の理解が重要でした。妻はふたつ返事でOKしてくれ、スクーリングにいつも一緒に仙台に来てくれていた長女(当時4歳)も「おとうさん、“ひとのこころのけんきゅう”がんばってね！」と応援してくれました。追い込みの時期は週末2日とも図書館に

こもり、暗くなってから帰宅するのを笑顔で迎えてくれました。面接指導、質問紙調査やスクーリングのたびに子守を引き受けてくれた両親にも感謝です。家族のきずなも深まりました。

■御礼, エール

多くの方々に支えられて、無事卒業することができました。ご指導いただきました中村先生をはじめ東北福祉大学の先生方、通信教育部事務室のスタッフの皆様方、一緒に勉強したスクーリング・クラスの方々など多くの方々にお世話になりました。とくに卒業研究では、中村先生の迅速で的確なご指導がなければ、とても研究論文を完成できなかったと思います。質問紙調査では、クラスでの実施を快く引き受けてくださった西林先生、澤田先生、山本先生、貴重な時間を使って調査にご協力くださった多くの通信教育生の皆様、震災後の大変な時期であるにも関わらず何かと支えてくださった通信教育部事務室の皆様に、心よりお礼を申し上げたいと思います。そして、卒業研究に取り組もうと考えている方々、迷っている方々には、ぜひチャレンジしてみることをお勧めします。まだ明らかになっていない何かを明らかにする、卒業研究の魅力をぜひ体験してみてください。最後に卒業研究に取り組まれる方へのエールとしまして、よい道標になった参考書をご紹介します。参考になれば幸いです。

<参考図書>

- ・松井 豊 (2010). 改訂新版心理学論文の書き方 河出書房新社
- ・山内光哉 (2009). 心理・教育のための統計法<第3版> サイエンス社
- ・小塩真司・西口利文(編) (2007). 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- ・鎌原雅彦他(編著) (1998). 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房
- ・小塩真司 (2011). 第2版 SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 東京図書

社会福祉士国家試験合格体験記

5 / 18の「特講・社会福祉学5 (社会福祉士国家試験対策講座)」において、OBから体験談を話していただきました。ぜひご参考にしてみてください。

通信教育部社会福祉学科卒業生 戸田 道行

私は昨年度の7月末に実習が終わったのですが、レポートや科目修了試験に追われ、本格的な国家試験対策はそれから1ヶ月ほど経ってからでした。取り組みとしては参考書を買うことから始めました。選んだのは600ページ程の1冊に、出題全科目がまとめられているものでした。私はこの参考書を通読し、疑問に思った点、分からない点などについては「社会福祉士養成講座」等の資料で確認するようにしました。参考書についてはあくまで勉強の足がかり、あるいは様々な資料をまとめあげる目次のように活用していたように思います。

参考書を1度通して読んでからは、模試や過去問にも取り組むようにし、間違えた問題や苦手と感じた科目について参考書で確認した上で再び問題集に取り組むということを試験前まで行っています。

試験勉強を進める上で苦労したのは勉強の時間が確保できないということでした。試験勉強のための時間は平日で1時間もない日が続き、レポートについては最終提出が12月にもつれ込むという事態になっていました。

学習時間については参考書を四六時中持ち歩き、通勤時間などを活用することで補いました。またレポート作成を試験勉強に繋げられるようにと心掛けました。平日はまとまった勉強時間の確保というのは難しいと思いますので、合間の時間をどのように使うのか、ということが重要であると思います。

勉強を進める中で不安になったのは模試や過去問の点数が上がらないということでした。特に苦手科目については無得点の科目があると不合格ということもあり、試験に臨む上でのプレッシャーになっていったように感じます。そこで得意科目の勉強についてはある程度切り捨て、苦手科目の学習に重点を置くようにしました。結果として苦手科目であってもある程度の点数は取れるようになっていきました。苦手科目を克服できたという事実は得意科目がある、ということよりも大きな自信につながったように思います。

参考書については問題を除けば最初に買ったもの以外を購入することはありませんでした。あまり手を広げても収拾がつかなくなると考えたからです。試験対策についてはこれまでの通信教育の中で必要なものはほとんど揃っており、後はそれらをどのようにまとめ上げるのかということが重要であると、という思いで臨みました。